

つかはら 塚原古墳群 2

大野城市教育委員会

このシートは、「考古No.10 塚原古墳群1」につづくものです。塚原古墳群は、牛頸の平野神社の北約200mのところであり、平成5年1月まで発掘調査がおこなわれていました。その結果、古墳26基、小石室10基などが見つかりました。今回は、これらの遺構のうち、とくに小石室についてとりあげてみました。

小石室というのは、大人一人がやっと横たわることができるくらいの小さな石室を持つお墓のことです。写真1は、平成2年に調査した場所を撮影したもので、ここは現在歯科医院になっています。写真手前の、細かい石を敷きつめてあるところが古墳の石室の床面で、奥に見える横長の長方形の石組が小石室です。本来は両方とももっと上に石を積み上げてあったのですが、残念ながらその部分はすでにこわれてしまっていました。今からだいたい1500年くらい前のものです。



写真 1



写真 2



写真 3

写真2は、この小石室の中を掘っているところです。小石室の大きさは、縦2m・横70cmくらいでした。作業をしている人と大きさを比べてみてください。

写真3は、完全に掘りあがってから撮影したものです。床面には赤い塗料が塗られていたのですが、空気にふれるとすぐに色があせてしまいました。副葬品はありませんでした。



写真 4



写真 5

写真4は、二人で小石室の記録をとっているところです。石の位置や床面の様子などをこまかく測量して、右側の男の人が方眼紙に書き込んでいきます。この小石室には副葬品がありました。写真5がそれで、鉄で作られたやじりです。鉄でできたものは、このように錆びついたまま出土しますので、あとから錆をきれいにとり除いてもとの形を調べなければなりません。



写真 6

写真6は、小石室の石組がほぼ完全に残っていた例です。大きめの横長の石が4個置かれていますが、これが小石室の天井にあたります。実際の発掘調査では、まずこの段階で写真4のようにして記録をとり、写真撮影などもおこないます。これはおもに天井の部分に用いられている石の様子を調べるためです。



写真 7

それがすむと天井石を動かして、石室の中の様子を調べなければなりません。石室の中にはふつう土がつまっていますので、それをきれいに掘りあげると写真7のようになります。石室の大きさは縦が1.2m、横が60cmくらいでした。このような小石室は、塚原古墳群ではこの一例だけでした。